

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	タイムスタディによる訪問リハビリ部門の業務把握と改善
演者名	藤原由香 1) 高橋友二郎 1) 大石奈央 1) 山中ゆかり 1) 大杉泰弘 1) 2)
所属	1) 頤田病院 2) 飯塚病院総合診療科

目的

頤田病院の訪問リハビリ部門は訪問診療部門と 1 つのチームとなり、地域の介護と医療の双方のニーズに段階的に応えることで、平成 26 年 10 月現在で昨年 10 月 47 名だった患者数が 80 名となり、業務の効率化が必要となってきた。

今までは個々のセラピストが導入から終了まで担当患者に専従し、直接業務以外の業務量が非常に多い状態であった。そこで今回事務職員と業務を分担し業務内容把握と事務業務を縮小し、患者情報等の一元管理と業務改善を促進させる目的で、セラピストの業務の効率化に取り組んだ。

方法

- ・ 5 分間隔のタイムスタディをとり現状の業務内容を把握、及び業務改善の検討を行った。
- ・ 業務改善の具体的内容としては、カルテ作成、請求業務、各種文書・書類の準備、電話対応など、今まで各セラピストが行っていた業務を事務職への移行を実施した。
- ・ 患者の情報共有のためカルテ整理、患者リスト作成・書類等の情報整理と改善等を行った。
- ・ 更には、Process Flow Chart(プロセスの流れを視覚的に説明する資料以下 PFC)を作成し標準化された内容を可視化した。

結果

1 日のセラピストが費やす事務時間は一人あたり 6 月 35.7 分から 10 月 10.0 分、残業時間は 1 日あたり 86.8 分から 68.3 分と軽減された。さらに 6 月から 10 月の 1 人当たりの平均単位数は 9.6 単位/日から 11.1 単位/日に増加した。

考察

これまでのセラピストの業務内容は、直接業務以外にも多岐にわたっていたが事務職員を配置することで、平均単位数の増加と残業時間が軽減できた、更に今までセラピストが感じていた事務作業へのストレスが軽減され、カンファレンス時間が作れたことで訪問リハビリチームとしての組織力が高められ、個々のスキル向上に繋がった。3 ヶ月で患者 20 名増セラピスト 1 名増員と拡大しており今後も事務職員の果たす役割は増加すると考える。